

平成 29 年度 研究成果報告書

Research Achievement Report FY2017

講座名・職名 Course Title・Job Title	日本語日本文化教育センター 准教授
氏名 Name	大和祐子
専門分野 Academic Field	日本語教育学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	(1) 非漢字圏学習者の漢字語彙学習の成功に影響する要因の解明 (2) 韓国語の助詞連続構成の認識と許容について
<p>(1) 本年度は、昨年度末に実施した非漢字圏学習者と漢字圏学習者の漢字の文字正誤判断課題の結果を分析し、報告した。まず、漢字圏学習者群と同等の日本語語彙知識を持つ非漢字圏学習者を語彙テストの結果から選定し、非漢字圏学習者群として、漢字圏学習者群との漢字一文字の書字認知処理に見られる特徴を比較した。その結果、語彙知識が同等である日本語学習者の場合、漢字(書字)の正誤判断の正確さに影響するのは、学習者群の差よりむしろ漢字そのものの特徴(書字的複雑性・漢字の難易度)であることが明らかになった。以上の結果は、CAJLE2017(カナダ・カルガリー)で報告した。</p> <p>大和祐子・玉岡賀津雄(2017)「非漢字圏日本語学習者の漢字認知のメカニズム」『CAJLE2017 proceedings』289 - 294.</p> <p>同じ条件で実施した漢字の文字正誤判断課題を処理の迅速さの面からも分析した結果、正しいと判断すべき漢字の場合、学習者群・漢字の書字的複雑性・漢字の難易度のいずれの主効果も有意で、条件により差が見られた。それに対し、正しくないと判断すべき疑似漢字の場合、学習者群の差は見られなかったが、書字的に単純な疑似漢字は複雑な疑似漢字より迅速に処理でき、偏と旁の組み合わせの誤りがある疑似漢字は一画多かったり少なかったりする形状が類似した疑似漢字より迅速に処理できることが分かった。以上の結果は、JASLA・第二言語習得研究会第28回(2017年)全国大会で報告した。</p> <p>大和祐子・玉岡賀津雄(2017)「漢字の書字的認知処理—非漢字圏と漢字圏の日本語学習者の比較—」『JASLA2017 予稿集』</p> <p>さらに、この実験とは別に、韓国人日本語学習者に対して漢字の読み書きテストと語彙テストを実施し、これらの因果関係を検証した。その結果、日本語の語彙知識がまず漢字の読み取り能力に貢献し、その漢字の読み取り能力を介して語彙知識が漢字の書き取り能力に貢献しているとする「逐次モデル」が実際のデータを最もよく表していることを証明した。以上の結果は、韓国日本言語文化学会2017年春季大会(韓国・ソウル)で口頭発表したのち、論文にまとめた。</p> <p>大和祐子・玉岡賀津雄・熊可欣・金志宣(2017)「韓国人日本語学習者の語彙知識と漢字の読み書き能力との因果関係の検討」『ことばの科学』31, 21-38.</p> <p>(2) 本年度は、昨年度までに実施した実験結果をまとめ、국제한국언어학회(国際韓国言語学会)ICKL 20(フィンランド・ヘルシンキ)で報告した。現在、論文としてまとめている。</p> <p>고지마 다이키・사이토 노부히로・야마토 유코(2017)「조사 결합형태의 허용도에 대하여—‘에’와 ‘가’가 결합한 형태를 중심으로—(助詞の結合形態の許容度について—‘에’と‘가’が結合する形態を中心に—)」</p>	